

東京片貝会報

発行所 東京片貝会
港区芝公園2-11-4
TEL 03(433)5925

昭和五十五年総会(第21回)のご案内

新緑の候を迎え、健やかにお越しのことと存じます。故郷では「ふるさと会館」や花火の観覧席が竣功しました。さぞ今年の祭りも、盛大に挙行されることと思えます。本会としては、郷里の益々発展を祈念するとともに、会員諸子の心のつながりを深め、一層の親交を期して、第21回総会を開催いたします。どうぞ、先輩、同級互いに相呼び合って、ご参加くださいますよう、ご案内申しあげます。

日時 6月15日(日)午後一時(正午より受付)
会場 大田区 平和島温泉(午前10時より開館)
国電大森駅東口よりバス五分

京浜急行平和島より徒歩十分

受付で東京片貝会員と言つて、料金を払わず入場ください。子どもの遊び場あり。温泉はタオル持参で、開会まで自由にご利用を。タオルは販売も
会費 三、五〇〇円(折詰、飲み物、菓子他)
・お子様連れの方に、玩具などお土産に用意いたします。
・郷里の物産を割引き値で販売しますので、ご利用ください。
・今回新たに編集の会員名簿を贈呈いたします。年会費を納入され、欠席の方で名簿希望の方は、恐れ入りますが、送料二百円(切手可)お送り下さい。郵送いたします。

同級会だより

昭生会・辰巳会
恩師箕輪先生が本年喜寿を迎えられたので、教え児が合同で池袋の新平塚(鴻巣出身)でお祝いした。先生への記念品贈呈、先生よりもお土産があり、時の経つのも忘れて歓談した。十四名参加。

昭五会
春の懇親会を三月二十日、箱根強羅温泉で開催した。参加者十一名。また郷里との合同懇親会は、七月中旬に老神温泉へ集会して盛大に催す計画である。

生十四級友会
恒例の同級新年会を升本で開催出席者は十五名。和気あいあいのうちに散会した。一月二十日。

お願い、会費値上げ
いろいろ諸経費が嵩む状態であります。まことに申し兼ねますが55年度分より、年会費を八百円にさせていただきます。尚すでに前納の方の分は、差額はいただきますせん。振替用紙を同封いたしました。宜しくお願い申し上げます。

緑友会

郷里と関東方面の会員が集って水上温泉で一泊旅行を楽しんだ。昨年の十月六・七日。参加者は五十五名あり盛会だった。

東京支部の会長黒崎正氏が、仙台支店へ栄転されたので、池袋のすし幸で壮行、送別会が開かれた。栄進を喜ぶ声と、同級会に尽してきた同氏を惜しむ声と、こもこも交錯して盛会だった。三十名出席
これまで片貝会に協力していただいた同氏の発展を祈り、佐藤会長も出席した。

鳳友会
本年は四十二才に当るので、秋祭りに参加する計画を兼ねて、四月六日サンケイ会館で催した。参加者三十名。このうち片貝から十名が出席し盛会であった。

新辰巳会
三月二日、上野の法華クラブで二年後に迫った四十二才の厄抜い行事について協議、懇親会を開いた。片貝より七名参加、総数三十名の盛会だった。
陽光会
恩師永島先生を招待して、いつもの升本で新年会を開催した。片貝からも参加があり、賑やかな楽しい会合であった。二月十七日

楽しかった新年の集い

於 増上寺 (一月二十七日)

おだやかな月末の正月日和だつた。

くつろいだ会合にしたいというので、本年も芝増上寺の畳のある大広間で、催すことになった。いつも新年会は、来賓をお招きしないのが通例であるが、片貝から吉井精市氏(材木会社経営、前市議吉井進吾氏の令兄)が、上京の機に出席してくださった。又恩師の箕輪みね先生もご来会になり、感激ひとしおだった。

安達副会長の開会あいさつ、佐藤会長の年頭祝辞があり、長老高野三郎氏の乾杯で懇親会が始まった。

毎会出席の丸山フジさんが風邪のため欠席されたのは、いささか淋しかったが、児島良子さんのあでやかな日本舞踊は、新年を飾るにふさわしい花であった。また山田利雄さんの粋な股旅姿の踊りをはじめ、つぎつぎにくりひろげられる会員諸兄弟の歌声、名演技にみんなうっとりとなるばかりだった。吉井精市さんは得意の芸を数

々披露してくださった。中でもみこ爺踊りは、一同故郷の祭りを思い出おこして、やんやの拍手喝采だった。

会も最高潮に達した頃、恒例の福引きとなった。



本年は特に大矢光治さんが考案されたアイデア豊かな玩具や日用品類を提供してくださったので、いつそうバライティに富んだ景品となった。

かくて、興は尽きるところがなかつたが、一同懐しの木遣り唄を大合唱して、楽しい新年会も幕と

なった。

○青鬱荘一泊旅行を提案

会としては八年ぶりで、一泊旅行の計画を発表して、当日皆さんに呼びかけた。会報に間に合わなかつたので、新年会に参加した方々に限定されてしまったことをご了承承願います。今後は広くみなさんの声を聞いて、計画したいと思つていきます。

今回の旅行の詳細は三面の記事をお読みいただきたく存じます。

○出席者(八三名、敬称略)

- ・昭和 11、20
- 奥田佳子
- 山口三郎、芋川とし、相崎善次郎
- 藤田睦子、小宮竹次、安達幸一
- 勝又 功、大矢幸治、芝三四司
- 安達三好、和田豊次、高橋四郎
- 山口福次、藤塚吉雄、山口吉五郎
- 松下利夫、山田利雄、山田美代治
- 浅田 猛、佐藤敏雄、気田登美
- 西山和子、小宮幸雄、浅田栄三
- 友田正雄、五十嵐貞雄
- ・昭和 21、30
- 安達和三、山岸慶昭(小千谷)
- 大矢金吾、浅田義男、児島良子
- 黒崎 正、相崎達一、小宮としえ
- 大塚順一、浅田六郎、横尾ミチエ
- 本田幸男、小野塚重一(片貝)
- 浅田好司、安達 敏、本田正弘
- 後藤エイ子(静岡)、山崎英輔
- 小林正雄、黒崎 勝
- ・昭和 31、
- 大塚国夫、小宮善興、諸我時夫

ありがとうございました

左の方々より、ご芳志を賜わりました。記してお礼のことばに代えさせていただきます。

- 箕輪みね、吉井精市、高野三郎
- 西山和子、浅田栄三、広井三代次
- 安達竜作、黒崎孝造 (敬称略)

- ・明治
- 恩師 箕輪みね、片貝 吉井精市
- 高野三郎
- ・大正
- 吉原周治、相崎政弘、南雲吉松
- 佐藤正雄、高桑喜枝、広井三代次
- 浅田兼次、安部盛治、渡辺左武郎
- 水内脩治、佐藤量八、小林倉三郎
- 神林徳次、大矢福次、相崎尚次
- 安達宗吾、星野三作、安達徳太郎
- 石黒ミス、高橋清雄、大塚タケ
- ・昭和 2、10
- 小川茂雄、相崎勇次、浅田喜八郎
- 山口ヨシ 相崎マサ、吉井武二、
- 安達 武、丸山 春、黒崎米太郎

木の芽、輝き薫る

奥湯河原温泉一泊旅行 4月20、21日

八年ぶりで、奥湯河原温泉の青
巒荘旅行を計画した。

八島出身の高知尾健次郎さん（
旧姓安達）が開発されたゆかりの
地であることは、年輩の方なら誰
もが知っているところ。

東京駅に集合して出発した。住
まいの都合で、途中から合流した
人も数名あった。湯河原駅に着い
たのは三時近くで、迎えにきても
らったマイクロバスで、旅館へ。



みんなが揃ったところで、玄関前
で写真をパチリ。

この野天岩風呂の趣きは、数
ある箱根温泉の中でも屈指のもの
であろう。美しい新緑に囲れ、落
下する滝を眺めながらの入浴は、
えも言われぬ味わいがある。

五時に一同会合して、片貝会の
これからの運営やら計画について
心おきな意見交換をした。六時
から懇親会。まず、広井さんから
ここを訪れる郷里の人に対して、
どんなに高知尾さんが欲待したか
どうか青巒荘をわが家とも思っ
てくつろいで下さい……との挨拶が
あった。

飲むほどに、語るほどに、みん
なは年令の差も忘れて、楽しさは
いつまでも尽きることがなかった。
翌朝、尽きせぬ名残りを互いに
心にこめつつ、十一時頃散会した。

参加者（三十二名）
高野三郎、高桑喜枝、渡辺左武郎
佐藤量八、山口盛作、小野塚健次
相崎尚次、大矢福次、小林倉三郎
浅田庄次、神林徳次、三重堀繁蔵

安達宗吾、相崎勇次、芝三四司、
芝 五郎、高橋四郎、佐藤道雄、
山田利雄、山口松司、小宮貞雄（
以上二名片貝より） 浅田シズイ
相崎マサ、神林全子、横尾ミチエ
後藤エイ子、浅田良司、山口智恵子
本田幸男、児島良子、広井三代次
山田美代治（以上二名青巒荘）



新年会風景

会の動き

ふるさと会館に祝電

昨秋より工事中の会館が完成し
一月十二日に竣功式が催された。
会より祝電を送り、お祝いした。

新年会
一月二十七日、二面参照

総会準備の役員会―四月六日―
各年次の方と役員で総会準備の
会合を開いた。別項のような内容

を決定するとともに、昨年延期し
てあった役員改選を総会にはか
ることとした。改選の資格はほぼ
固められたが、尚未確定の問題も
あり、総会までに煮つめることと
なった。出席者二十名、港区自動
車健保会館にて。

片貝会旗が県人会大会に

新潟県人会が本年70周年を迎え
るにあたり、片貝会も表彰される
ことになった。五月十七日の大会
には他の郷里の会旗と共に、片貝
会が新調した会旗も参加して栄誉
を受けた。上野精養軒にて。

安達道宗さん（会計役員）
病氣療養のため入院中、本会よ
り、心ばかりのお見舞を申しまし
た。

追加訂正

さきに二十周年記念事業会計を
報告しましたが、左記の方が洩れ
ておりました。追加訂正して、お
詫申しあげます。

昭26年卒 小高 君様

ふるさと便り

◇ふるさと会館開館

昨秋より工事中であった会館はめでたく竣工し、只今町民のいろいろの催しに利用されている。神社参拝の折には、ぜひご参観をおすすめ申します。運動広場をはじめ会館の責任者は、元小学校長吉田一雄先生(池津)が就任された。

◇雪と春祭り、花火観覧席

今年の雪は一月半ばかり降り降り、四月に入っても尚堆く軒下に残っていた。春祭りには境内にもまだ消え残っているほど。花火の観覧席がこんど永久施設として立派に完成した。秋の花火見物に大いに役立つことであろう。

◇健児の像

本年の小学校卒業の児童が、記

お泊りになれます、ふるさと会館に

二十周年記念事業の一環として本会が布団五組を寄贈しました。宿泊希望の方は、一月前から受付ける由、料金は素泊り二千円(入

念にブロンズの健児の像を寄贈した。雪が消え次第、校庭の裏庭に据えられることになっている。

◇人の動き

九年間協議会長をされた安達基吉氏は、高令の故をもつて辞任され、吉井進吾氏が代行を勤めることとなった。同氏の功績をたたえる声が高い。

小学校のPTA会長に安達良一氏(三の町風月堂)がなられた。又長い間公民館長だった山口孝司氏は、三月末退任され、後任として、吉田一雄先生が就任されることとなった。

◇良寛かるた

五の町の浅田壮太郎氏が監修された「良寛百首かるた」が長岡か

ら発行された。浅田先生の良寛研究は全国的にも注目的になっているようである。

◇農協三十年史発行

片貝農協は町の経済の中心的存在になつてきているが、このたび記念誌が発行された。巻末に片貝の歴史を記述した浅田壮太郎先生の文章は、今後片貝を知る貴重な資料となるであろう。

ふるさと会館へどうぞ!

先日は高価な寝具を寄贈いただき、有難うございました。故郷を離れていられる皆さんから、出来るだけ多くご利用いただきたいと願っています。

開館以来、町民にご利用いただいているのですが、まだ軌道に乗つたとは申せません。今後の運営の如何に関わるものと、その責任を感じています。

会館は正規の宿泊施設として、作つたものではありませんので、種々不便をおかけすることと思えます。しかし、一王子様の静かな森の中で、故郷のふん囲気だけは十分味わっていただけるものと信じます。

館長 吉田一雄先生より

会 員 訪 問

講春会の横尾ミチエさんのご主人は山形の方。田端で写真材料を手広く扱っていられる。奥様はご主人を助け、小売店を経営し中々の繁昌ぶり。店名を三愛という。商売を愛し、人を愛し、社会、家庭を愛するのがモットとか。にこやかな顔立ちにも、それがよく窺われる。ご発展を祈ります。

落 し 物

前回の総会に小銭入れを忘れた方のうち、お一人申し出がありました。もう一箇お預りしています。心当りの方は、ぜひお知らせ下さい。お待ちしています。

あ と が き

よい気候になりました。皆様には、健かにご活躍のことと存じます。狭い紙面に片貝のこと、会の動きを、精一杯盛りました。ご多忙の時間を割いて、お読みいただければ幸いです。六月の総会にはぜひ、ぜひご出席ください。心からお待ち申しあげております。